

# 千葉農業事務所

# 普及だより

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/>

【第141号】 2015年8月1日

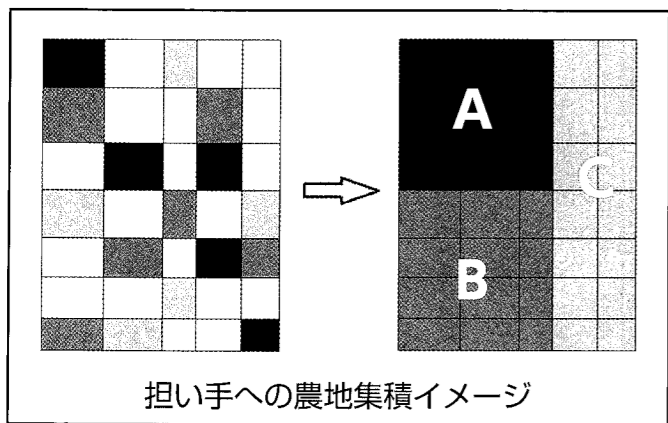
発行：千葉農業事務所改良普及課  
千葉農業改良普及事業協議会  
千葉市緑区大金沢町473-2  
(千葉農業事務所 分庁舎)  
TEL 043 (300) 0950  
FAX 043 (293) 2710  
E-mail : chibaaec@pref.chiba.lg.jp



▲飼料用米の作付が増加中（専用品種）



▲省力化につながる乾田直は作業



## 農地集積・省力技術・営農品目導入で 水田農業の経営安定を目指す！

千葉地域は、水田面積が四千ヘクタールと多く、水稲栽培経営体も多い地域です。  
昨年は、主食用米価格が一俵（六十kg）九千円台となり経営への影響が懸念されます。  
今後は経営安定を図るため、担い手への農地集積と各種政策補助を活用する取り組みが必要です。

### ◆農地中間管理機構の利用

農地中間管理機構（公益社団法人千葉県園芸協会）で行う農地の賃借事業を利用し、担い手への農地集積を図ります。  
現在農地の出し手を募集しており、貸し付けたい農地がある場合は、千葉県園芸協会農地部（☎〇四三―二二三―三〇一一）まで問い合わせ下さい。

### ◆飼料用米・飼料用イネ（WCS）等の導入拡大

政策補助を活用し、安定した所得が得られます。（詳細は二ページ参照）

### ◆直は栽培（乾田、湛水）

育苗管理の省力化が図れます。また、鉄コーティング湛水直播では省力化と普通作との組み合わせで収穫期間の拡大が期待できます。

### ◆団地化による麦・大豆等 営農品目栽培

地区との合意により、小麦、大豆、飼料作物の栽培を導入し米以外の収入を確保します。

## 地域の担い手 梨産地百年の守り人 八千代市 山崎宏洋さん



山崎宏洋さんは、八千代市睦地区で、梨を中心に、果樹百四〇a、水稲百一〇a、直売用野菜三〇〇aを栽培しています。労働力は家族五人と雇用二名で、主に梨園近くの直売所で販売しています。

### ◆技術習得と梨研究部での活動

二二才で就農し、梨の栽培技術は、八千代市梨業組合研究部（以下「梨研究部」）で習得しました。梨研究

部での活動の結果、平成二五年度には、農業者として認証を受けるまでになりました。

### ◆梨づくりを支える仲間

現在、梨研究部員は十六名、二〇〜三〇才代の若手がいます。  
今年度、山崎さんは部長として就任しました。部会でのリーダーシップと、確かな仕事ぶりから、先輩からも信頼を得ています。

### ◆より多くの人に、梨を届けるために

やちよの梨は、百年の歴史があります。直売でほぼ完売し、量販店での購入は難しい逸品です。  
そこで、直売所以外でも買える機会が必要と考え、やちよの梨出張販売を企画中です。今夏はあなたの町に訪れるかもしれません。

山崎さんは今後、より多くの人に届けるため、梨園の拡大を視野に入れており、地域の担い手として、益々の活躍が期待されます。

## 農業青年

## やる気ある青年農業者を応援します 農業経営体育成セミナー開催中

農業事務所では、就農後間もない青年農業者を対象に、農業経営体育成セミナーを開催しています。  
このセミナーは三年制で、農業の基礎知識・技術や農業制度の講義、優良農家の視察や実習などを通じて、営農技術の向上と仲間づくりを行い農業への定着を図っています。

今年度も、五月二七日に開講式と各年次の一回目の研修を行いました。

開講式では、指導農業士会千葉地区会長、農業士協会千葉支部会長、市原市農林業振興課長様より励ましの言葉が贈られました。  
セミナー生は、栽培品目や趣味、今後の目標について述べ自己紹介を行いました。

開講式後は各年次に分かれ、仕事で活用するパソコン操作について、家ごとの課題を解決するプロジェクト学習、将来の営農計画作成のため

の研修を行いました。  
今年度のセミナーは、開催回数や優良農家の視察や実習を増やし、より実践的なカリキュラムを組みました。

全二二回の講座により、セミナー参加者の営農上の課題整理と経営改善能力を高めることで定着化を図ります。

の研修を行いました。

今年度のセミナーは、開催回数や優良農家の視察や実習を増やし、より実践的なカリキュラムを組みました。



▲今やパソコンは農業経営に不可欠！

### 先駆的農業者 消費者の顔が見える農業を！

#### 習志野市 桜井勝子さん



▲元気一杯！（さくら農園）

「農業がおもしろくてしょうがない！」と話してくれたのは、桜井勝子さん（七〇代）。水田、畑あわせ

て一ヘクタールの農地で体験型農園「さくら農園みらい塾」経営と地元量販店のインショップへの出荷を行っています。

#### 体験型農園の草分け

以前はニンジン農家であった桜井さん、六五歳の時に体験型農園の視察に参加、都市化がすすむ習志野市でも市民の農業体験と交流の場が必

要と直感、先駆者として体験農園を開設しました。近隣は宅地化が進みトラクターの音や畑の土埃に苦情がでる環境です。しかし、続けているうちに周囲にも認められるようになりました。「私、人が好きなの！」取材中も塾生が立ち寄り、会話が花が咲きます。来年十周年で塾生の約半数が開設時からのリピーターです。

#### さくら農園の仕組み

塾生は年会費を払い、桜井さんのプロの技を講習会で教わりながら、作付計画に基づき、一区画年間二十種類以上の野菜を作付します。種苗、農薬、農機具は作業場に用意してあり、農園には手ぶらで来る事が出来ます。春と秋に収穫祭を兼ねて交流会も開催しています。

「八五才まで農業をやりたい！」元氣いっぱい桜井さん。一層のご活躍を期待しています。

### 耕畜連携 転作作物に 飼料作物の導入を！

近年は食の欧米化がすすみ、米の年間一人当たりの消費量は昭和三五年の百十八kgが平成二五年には五七kgと半減しています。そのため食用米が過剰供給となり安値の要因となつています。その対策として飼料用米の作付け拡大が取り組まれています。

#### 飼料用米の導入

飼料用米は、①水はけの悪い湿田でも作れること。②既存の機械や施設をそのまま使用できること。さらに国・県の経済的支援が受けられるメリットがあります。

今後この制度は継続される予定で次年度の作付計画でも取り組みが望まれます。

#### 一毛作利用の勧め

そのような中、飼料の安定供給と水稻農家の所得増を図るため、水田

の二毛作への取り組みが始まっています。

先駆的に行っている地域では、七月に刈取った飼料用稲（稲WC S）の後作として、冬型牧草を播き、一二月と四月末に刈り取る体系です。八月中旬収穫の食用米の後作でも可能です。

市原市海上地区では昨年からの地域の畜産農家等と連携し、ブロックローテーションの一環として、小麦収穫後に、飼料作物のスーダングラスを導入しています。

#### 耕畜連携のポイント

これらの事例は水稻・畜産農家が話し合い、それぞれの役割や経費負担などを決め、お互いの譲歩のもと納得いく形で行われています。

農業事務所では耕畜連携をはじめとする連携強化による農業発展を目指すとしています。



近年、発生時期や発達規模など想定外の台風発生が見られ、パイプハウスでも強風により倒壊などの被害が発生しています。

### 農業施設 パイプハウス点検・補強で 強風被害軽減を図りましょう

#### 強風による変形の原因

横面は、風圧を受けるとパイプ部が変形することで力を分散していません。しかし、風が強まり、その復元力を超えるとアーチの陥没、続いてジョイント部やパイプが抜けて全壊に至ります。

妻面では、縦横のパイプ同士を金具が接合することで強度を高めていますが、風圧が金具の強度を上回ると妻面の端から連鎖的に倒壊します。強風による倒壊を防ぐには、次の対策が有効です。

#### 保守点検の励行

長年使用によりジョイント部・ボルトナット・クサビや杭の緩みや金

具の脱落、鋼材の腐食が進みます。定期的に点検・修理を行い強度の維持を図ります。

#### アーチ部分の補強

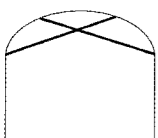
側面から天井部にパイプ支柱を設置し補強することで、アーチパイプの変形を抑えます。（図1）

#### 妻面の補強

妻面に筋交いを入れることで、強度が増します。（図2）

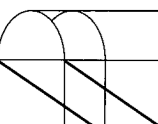
#### 図1 アーチ部分の補強

パイプ支柱をアーチ・母屋パイプ中央のX部分を金具で固定する。



#### 図2 妻面の補強

パイプ筋交いを両側面に設置、垂直パイプの交差部分を金具で固定する。



### 産地育成 ワケネギ規模拡大には定植・ 調製作業の改善がカギ！

土気地区出荷組合連合会ワケネギ部会（一三戸）では、若手生産者を中心に、作業負担の軽減に取り組んでいます。

ワケネギ栽培では出荷調製作業が全作業時間の七八%を占めます。また、定植作業は長時間のかがみ作業が負担となっており、作付け規模の拡大には定植・出荷調製作業の省力化と負担軽減が求められます。

#### 定植作業では定植機導入が有効

定植作業では前年度から実証展示や視察等により定植機導入を検討してきました。

その結果、ワケネギ半自動定植機により、植付け能力は手植えと比較し三〜六倍にスピードアップが期待できることが実証され、今年度は二台の導入が予定されています。



▲ワケネギ半自動定植機で作業効率アップ！

#### 出荷調製作業では作業環境の改善がカギ

出荷調製作業では、全戸の作業場を点検し、場内の適正照度や、作業者の体型に合った作業台と椅子の改良など、快適に過ごせるよう作業環境改善にも取り組んでいます。

#### 産地のさらなる飛躍を目指して

今年の三月、若手生産者を中心とした研究会組織が結成されました。今年度はこの研究会を軸に、出荷調製機の導入検討などわけねぎ規模拡大に向けた活動を展開していきます。